


研究テーマ	法制度と人権の相互関係～古典的課題から先端的な問題まで	
担当者名	<b>大久保優也</b>	
ゼミの関連キーワード	法の支配 司法審査 人権概念 憲法学 法制史 法社会学 法哲学	
各研究の概要	<p>【ゼミナール1】</p> <p>ゼミ1では、①法学的な思考方法、分析方法を研究し、法学に関する事例の調査を行い、法的な思考を鍛える。②法的問題の背景にどのような社会の問題が存在しているのか考察する。③現代的な法の問題が古くから存在する法の観念どのように関係するのか研究する。④①から③までにおいて深めた法的思考方法を基に裁判例を分析する。受講生は、毎回、難しい文献や判例を読み解き議論を行うので、かなりの予習・復習を要するので要覚悟。</p>	
	<p>【ゼミナール2】</p> <p>ゼミ2は、ゼミ1よりも専門的な、法学に関係する内容を扱うことになる。現時点での受講生の卒業論文のテーマに関する文献や判例を基に、参加者による定期的な報告や、参加者にとって共通の必要な文献の輪読、裁判例の研究などを行う。ゼミ1よりも、専門的になり、かなりの予習・復習を行うことが参加者に求められる。ゼミ2は卒業論文と直結してくるので、研究したいことなど、担当教員とよく相談して履修することが必要である。自分から積極的に調査・研究する学生が望まれる。</p>	
	<p>【卒業研究】</p> <p>卒業論文の作成を目的とするゼミとなる。卒業論文に必要な資料・文献の読解を、ゼミの予習として行い、それを報告し、自己の見解や分析を明らかにすることが卒業研究の中心となる。受講生は、卒業論文作成のため、法学に関する、読解が難しい文献や判例を読むことが要求されるので、かなりの予習と勉強量が必要となる。</p>	
過去の卒業論文の題目例	<p>「少年法における成長発達権の考察」、「日本における厳罰化について」、「出生前診断と自己決定権」、「現代における公共性維持のための表現の自由について」、「自立支援」におけるパターンリズム的介入と憲法学的見地からの検討」など。</p>	
履修上の注意	<p><u>このゼミを志望する学生は、事前に必ず個別面談に来て相談すること。法学の研究においては、かなり難しい判例や文献に関して読解しなければならず、かなりの時間の予習・復習が欠かせない。そうした研究活動に耐えられるかどうか要確認のため。</u></p> <p>難しい文献や判例を読み解く読解力と忍耐力を有する学生が望まれる。</p>	
関連する課外活動	特になし	